

を用いて手術を行った症例について検討する。対象は pineal region tumor 2例2件, falcotentorial meningioma 1例2件, 小脳虫部 AVM1例1件, 小脳テント髄膜腫2例2件, 計6例7件である。手術成績は全摘出4例, 亜全摘出2例であった。手術合併症は1例に内側後頭静脈の障害による一過性半盲を認めた。Occipital transtentorial approach は pineal region tumor のみならず, 小脳上部病変や小脳テント病変の手術に有用である。

## 11 眼窩内より発生し、頭蓋骨及び硬膜転移を来したマイボーム腺癌の1例

喜多 大輔・長谷川光広・岡本 禎一  
林 康彦・吉田 優也・島 浩史  
山下 純宏

金沢大学脳神経外科

症例は43歳の男性。2002年7月、左側の眼球突出と視力低下を主訴に近医受診。CTにて左眼窩内から骨を破壊し頭皮下に及ぶ腫瘍を指摘され、当科紹介となった。左前頭側頭開頭にて腫瘍を亜全摘出した。病理組織診断は、眼窩皮脂腺(マイボーム腺)由来の腫瘍であった。側頭下窩の残存腫瘍に対して放射線療法を施行し、CRとなった。2003年12月に左側頭部に複数の転移巣が発見され、2004年1月当科へ再入院。皮下、頭蓋骨、及び硬膜に付着した腫瘍を摘出し、術後摘出部位に分割放射線治療を追加した。更に左前頭の傍矢状洞硬膜に広範な脳浮腫を伴った転移が発見され、低分割定位放射線療法を行った。眼窩部腫瘍が他部位に転移することは非常に稀であり、治療法も確立されていない。本腫瘍における転移の機序ならびに治療戦略について考察する。

## 12 T2WIにて周辺部 low intensity を伴う ependymoma の2症例

長内 俊也・松本 亮司・磯部 正則  
井須 豊彦

釧路労災病院脳神経外科

脊髄 ependymoma は全髄内腫瘍の約40%を占

め、脊髄髄内腫瘍で最も頻度の高い腫瘍であり、臨床的には astrocytoma との鑑別が問題となる。Ependymom では MRI T2WI にて腫瘍周辺にヘモジデリンを示す low intensity を認める場合があり、astrocytoma との鑑別に有用である。今回我々は術前 MRI にて腫瘍周辺に T2WI にて low intensity を認めた2症例を経験したので、経過、画像所見、手術所見について若干の文献的考察を加えて報告する。

〔症例1〕63歳男性。20年前より徐々に悪化する両上肢のしびれ、および、歩行障害を主訴に当科初診。神経学的に両上肢筋力低下、C5からTh1レベルの感覚低下、歩行障害を認めた。MRI上C4からC5レベルに上下にT2にて low intensity を伴う、enhance される intramedullary mass を認め、後方アプローチにより腫瘍を全摘出。周辺の old hematoma は一部残存したが、術後両上肢の痺れ、脱力、歩行障害は改善した。

〔症例2〕34歳男性。左上肢脱力を主訴に当科初診。神経学的に左上肢弛緩性麻痺、左手の atrophy, 両下肢 hyperreflexia, spastic gait, 両側知覚障害を認めた。MRI上C5からT1レベルに enhance される intramedullary mass に対して、腫瘍摘出術を施行。術後経過は良好で自立歩行ができるまで回復したが、atrophy は残存した。

## 13 傍側脳室部海綿状血管腫の1手術例：手術法決定における Fiber Tracking の有用性

新妻 邦泰・隈部 俊宏・日向野修一\*  
富永 悌二

東北大学大学院神経外科学分野  
東北大学病院放射線科\*

【目的】Fiber tracking による錐体路描出が手術方法決定において有用であった傍側脳室部の海綿状血管腫の1手術例を報告する。

症例は23歳女性。2003年12月初旬に頭痛を伴った下肢に強い右片麻痺が出現した。近医にて左側脳室外側に出血を伴った嚢胞性病変を認めたため、精査加療目的にて当科紹介入院となった。来院時、下肢に強い右不全片麻痺(4/5)を認めた。